

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

〔東京美術学校近事〕(二七一八)号。S・四・三・五

職員動靜

○職員辭令

昭和四年一月四日

除服出仕

同 年同月廿一日

助教授 森田 武

陸軍歩兵大尉  
正七位勳五等 鈴木 信一

任東京美術学校生徒主事 紋高等官六等

同 年同月廿二日

生徒主事 鈴木 信一

教務掛主任事務取扱ヲ命ス

同 年同月廿六日

除服出仕

書記 筒崎 謙齋

同 年二月七日

除服出仕

書記 古田 坂松

同 年同月五日

教授 津田 信夫

助教授 田邊 孝次

學術研究ノ爲京都府大阪府へ出張ヲ命ス

同 年同月九日

教授 平田 榮二

助教授 三浦 直政

學術實地指導ノ爲神奈川縣下へ出張ヲ命ス

○昭和三年十月廿九日勅令第二百五十六號を以て文部省直轄諸學校官制中に改正を加へられ「生徒監」を「生徒主事」と改稱し又別に「生徒主事補」を置くこととなり各高等師範學校、高等學校、高等商業學校、東京大阪兩外國語學校、東京音樂學校及び本校には特に専任生徒主事一人づゝを配置せらるゝこととなり本校にては教務主任たりし鈴木信一氏が最初の専任生徒主事に任命せられたり

○圖案科森田〔武〕助教授は昨年十二月廿八日に母堂に永訣せられ筒崎書記は本年一月十九日令閨を喪はられ古田書記は二月一日養父を喪はる 孰れも職員厚誼會より代表者往弔し規定の香奠を贈與したり

○正木〔直彦〕學校長は美術上の要務にて二月七日より京阪地方に出張し十日歸京せらる

○小林〔万吾〕教授は文部省視學委員の任務を以て二月九日出發福島縣下に於ける圖書教育視察の爲め出張さる

○辻村〔延太郎〕講師は一月末病氣療養の爲め熱海溫泉旅館に滞在 中急に病氣重患に陥り一月三十一日遂に同地に於て永逝されたり 二月五日本郷彌生町の自邸に於て告別式を舉行さる 職員厚誼會より香奠を贈り弔問したり 辻村氏は現時漆藝界屈指の工匠たりしに齡僅に六十を越えしに過ぎざる今日俄に不歸の客となられしは甚だ痛悼すべきことなり

氏は慶應三年十二月三日神奈川縣中郡比々多村字白根の近藤氏の



松村 辻

長男として生れ、明治十七年神奈川縣師範學校に入學し、廿一年卒業後、同縣小田原町小學校訓導を奉職し、廿四年本校に入學、二十九年卒

業し、専ら故白山松哉教授に就きて研究し、三十三年本校助教授に任ぜらる。卅五年辻村と改姓、三十八年十月教授に任ぜられ、同十一月休職となりて、佛國巴里カイヤールに聘せられ、専ら本邦蒔繪術を傳授す、同四十年歸朝、爾來日本美術協會委員として同協會の爲力を致す、大正六年五月本校講師を囑託せらる。同八年農商務省工藝審査委員會委員を仰付られ、爾來今日に及べり、昭和二年帝國美術院工藝部の推薦となる等氏が漆工界に於ける地位に就いては、敢て嘆ずるを要せざる可し。

學校近事〔二八一—。S・四・四・一五〕

第三十八回卒業證書授與式

三月二十三日午前十時より本校大講堂に於て第三十八回卒業證書授與式を舉行す。第一號鐘にて新卒業生入場著席、第二號鐘にて職員及び參列舊卒業生著席、第三號鐘にて來賓著席、學校長の式辭に始まり、新卒業生に卒業證書並に卒業成績優秀者に賞與を授與し、學校長の告辭あり、尋で文部大臣（代理文部省督學官木村善太郎

氏）は訓辭をのべらる。

〔文部大臣勝田主計祝辭および卒業生総代会田留吉答辭省略〕  
來賓、職員、舊卒業生、新卒業生順次に退場し、職員及び新卒業生は玄關前にて記念撮影を爲す。

卒業成績優秀に付き賞與者左の如し。〔省略。卷末表參照〕

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	一六	〇	〇	一六
西洋畫科	三三	〇	二	三五
彫刻科	六	一五	〇	二一
建築科	五	〇	〇	五
圖案科	二三	〇	〇	二三
金工科	二	三	〇	五
鑄造科	〇	二	〇	二
鍛金部	〇	二	〇	二
漆工科	〇	〇	〇	〇
圖畫師範科	二三	〇	〇	二三
合計	一〇一	二二	二	一二五

卒業生姓名及卒業製作目錄（席次イロハ順）

日本畫科

夕の庭 本科 林 達慧（東京）

落葉	同	蓮尾 辰雄(福岡)	裸像	同	中村 節也(群馬)
回春	同	新納 榮(鹿児島)	ヴァイオリン持った男	同	南郷 梓(鹿児島)
投扇興	同	大村 寛次(茨城)	外出前	同	村上 義政(三重)
雙六	同	横山 孝行(廣島)	裸體	同	宇野 千里(熊本)
少女二題	同	田中正五郎(東京)	パンジーと少女	同	久保 守(北海道)
閑庭待春	同	田内 駿士(高知)	風景	同	倉員 辰雄(福岡)
薄暮	同	中島 三郎(茨城)	裸婦	同	黒部 竹雄(三重)
棧道の秋	同	内山廣之助(長野)	二人	同	山田 正雄(千葉)
小春日	同	山口 實(佐賀)	室内裸婦	同	山田 秀雄(東京)
春庭	同	松下 雄二(北海道)	靜物	同	山内 一彦(鹿児島)
春	同	小池鐵太郎(香川)	春	同	松村 菊磨(兵庫)
淡島	同	小林 清(東京)	長椅子	同	福井 謙三(兵庫)
淨利の秋	同	越田 勝治(石川)	人形を操る男	同	福原 達郎(栃木)
かごめ	同	淺野 正俊(新潟)	裸婦	同	藤田 慎治(東京)
夏	同	森村 行雄(愛知)	室内	同	手島 貢(福岡)
	西洋畫科		女	同	荒明 實(東京)
裸婦	自畫像	橋本八百二(岩手)	海濱横臥裸婦	同	齋藤 二男(東京)
少女	同	刑部 人(東京)	裸婦	同	齋田 捷三(東京)
裸婦	同	渡邊友次郎(福岡)	少女像	同	佐藤 章(岡山)
笛を吹く少女	同	門上 高久(福岡)	ニグロダンサー	同	水谷 浩(岐阜)
梳る女	同	川津 啓五(香川)	二女の圖	同	水船 三洋(廣島)
裸婦	同	兼吉恕世夫(兵庫)	海水着の女	同	宮内 秀雄(鹿児島)
婦人坐像	同	吉井 淳二(鹿児島)	自像	同	白土 時雄(茨城)
陶土を運ぶ人々	同	田邊 陸夫(京都)	無聊	同	島村三七雄(大阪)

編物	同	同	森 再次(富山)	一、少女 二、立女	同	藤波 信男(東京)
浴後	同	特別學生	金 浩 龍(朝鮮)	行く春	同	城戸 久平(福岡)
友の像	同	同	申 用 雨(朝鮮)	松本氏の首	同	泉二 勝磨(鹿児島)
				彫刻科		
				塑造部		
男の首	本科	岩田 滿平(東京)	立女	木彫部	本科	太田 重範(富山)
女	同	長濱 虎雄(福岡)	迦葉入信		同	安 一(山口)
男	同	八谷 均(廣島)	ひなた		選科	岩田長次郎(福岡)
立つ女	同	山田 兵一(大阪)	或ポーズ		同	林 春雄(福岡)
一、スロープ 二、女	同	松岡 嘉明(熊本)	建築科			
裸像	同	松本 雅男(東京)	Public Library		本科	中川 良一(愛知)
立てる女	選科	伊東 種(千葉)	Country Club		同	村田 政眞(三重)
一、少年の首 二、少女像 三、自像	同	長谷 秀雄(大分)	デパートメントストア		同	山口 儀(茨城)
習作	同	早川 巍一郎(鳥取)	推古館		同	望月 和作(静岡)
習作	同	新島豊治郎(福岡)	美術愛好家の家		同	鈴木 周男(石川)
一、女性 二、レリーフ 三、胸像	同		圖案科			
四、トルソー 五、レリーフ	同	大高 巖(東京)	バーの圖案		本科	堀越英之助(茨城)
腰掛けた女	同	太田 三郎(徳島)	織物壁掛圖案		同	徳田平四郎(香川)
一、睡蓮 二、女の首	同	大淵 武夫(福岡)	壁掛圖案(クリシユナ物語の一節)		同	渡邊 欣一(石川)
一、陽炎 二、享祐	同	小佐野 豊(山梨)	映畫ポスター圖案		同	河野 孝(東京)
一、立像 二、裸婦	同	田卷靖四郎(北海道)	壁面裝飾圖案(春と夏と秋)		同	吉谷 岩松(石川)
手鏡	同	野田 信(廣島)	客間及書齋の室内裝飾圖案		同	高橋 俊輔(東京)
首	同	松田 元(愛媛)	廣間及居間の室内裝飾圖案		同	高木 一郎(石川)
點燈噴水	同	松村外次郎(富山)	蠟燭壁掛(みのり)		同	中條 豊治(富山)
			壁面裝飾圖案(ヘラクレストの單原論)		同	黒田千吉郎(石川)

裝飾圖案二種 (A朝 B野口雨情氏作詩「嶋の聲」より)

同 小島 宗一 (三重)

裝飾圖案 (コンストラクション)

同 齋藤 利彦 (福島)

アツプルケ壁掛圖案

同 菊地 泉二 (東京)

裝飾圖案 (掬生夢)

同 仙名 博資 (群馬)

金工科

彫金部

生菓器

本科 會田 留吉 (東京)

手筈

同 神内謙三郎 (香川)

飾箱

選科 横川 彌作 (石川)

花盛器

同 高橋 勇 (石川)

手筈 (春)

同 佐藤 俊雄 (福島)

鍛金部

置物 (猫)

選科 石井忠太郎 (秋田)

飾壺

同 寺田伊兵衛 (茨城)

鑄造科

喫煙具 (烟草入灰落盆)

本科 八井 孝二 (石川)

圖書師範科

昭和四年三月二十三日付ヲ以ッテ左ノ通り奉職ニ決定セリ

就職學校名

未 定

岩手縣立福岡中學校

岩下 資治 (宮崎)

朝鮮春川高等普通學校

石山 忠夫 (福島)

熊本縣立山鹿高等女學校

原 竹男 (福島)

林 繁雄 (熊本)

未 定

山口縣下關阿部高等技藝女學校

范 洪 甲 (臺灣)

三重縣津市立高等女學校

太田 留三 (滋賀)

鹿兒島縣立伊作高等女學校

岡田 清 (長野)

富山縣立射水中學校

河野 太郎 (大分)

兵庫縣神戸成徳高等女學校

中島 穰 (東京)

福島縣立磐城中學校

村上 一雄 (岡山)

神奈川縣奈珂中學校

山田 武 (東京)

宮崎縣延岡高等女學校

山下大五郎 (神奈川)

群馬縣立太田高等女學校

松崎 愛人 (福岡)

大阪府立茨木高等女學校

松本 光 (千葉)

鳥取縣立鳥取高等女學校

福井 望 (兵庫)

大阪府黑山高等實踐女學校

藤本多賀喜 (大分)

朝鮮光州高等普通學校

高妻巳子雄 (大阪)

千葉縣立市原中學校

青山 龍水 (長崎)

未 定

滋賀縣大津市高等女學校

志賀 完 (秋田)

未 定

神奈川縣大磯實科高等女學校

平井 善一 (大阪)

未 定

新入學生姓名

左記ノ者本校各本科及選科並特別學生トシテ入學ヲ許可ス

昭和四年四月五日

日本畫科 (イロハ順)

今田慶一郎 板谷 廣起 稻垣虎之助 新名 武美 谷野 忠也 鷹巢 照久 田中 達三 中村 三郎

星野 辰藏 笠崎徹太郎 田中 善美 高木孝太郎 上田 薫 畝村 直久 眞鍋 忠行 相羽 秀雄

高井 惠 十河 正雄 築比地正司 長濱 眞敏 酒見 常藏 服部不二良 富田 武雄 小瀬村 清 大間知龍之助

村上 太郎 浦田 正夫 野上 陳貞 山本 正泰 溝口 宗博 中村 永男 桑村 伸夫 松田 一郎 淺岡 重次

小坂泰二郎 江間 祐壽 佐々木光英 菅澤 幸司 兵頭 文智 本武 憲孝 須崎 秀一

廣橋 環 森下 善作 菅澤 幸司 今村 俊夫 濱松政之助 西村 計雄 岡田 知夫 川端 實 原 千代彦 長谷川三之助 加藤 政雄 高木鐵之助

伊藤 悌三 伊藤 清水 五十嵐俊夫 今村 俊夫 濱松政之助 西村 計雄 岡田 知夫 川端 實 原 千代彦 長谷川三之助 加藤 政雄 高木鐵之助

石田 久雄 石山 融 林 邦男 西川 幸衛 大城 貞尙 岡田 知夫 川端 實 原 千代彦 長谷川三之助 加藤 政雄 高木鐵之助

長谷川時郎 新關 國臣 西川 幸衛 大城 貞尙 岡田 知夫 川端 實 原 千代彦 長谷川三之助 加藤 政雄 高木鐵之助

細田 喜道 外岡梅太郎 荻原 幸一 川端 實 原 千代彦 長谷川三之助 加藤 政雄 高木鐵之助

岡本 太郎 小田谷養次 荻原 幸一 川端 實 原 千代彦 長谷川三之助 加藤 政雄 高木鐵之助

川瀬成一郎 金子 三藏 高見 清一 田村玄一郎 中久木宏策郎 藤井 忠雄 小池 鎬三 白石 直一

竹内 英雄 孫 一峯 中島龜三郎 奈古屋晴夫 山野 正 加藤 清澄 菅 泰造 吉田 幸治 多田 健三

灘波 秀二 野村 章三 山川勇一郎 山野 正 加藤 清澄 菅 泰造 吉田 幸治 多田 健三

山本日子士良 眞木小太郎 万田 篤次郎 山野 正 加藤 清澄 菅 泰造 吉田 幸治 多田 健三

福富 實 相澤 武男 佐々木 孔 宮地 亨 暮田 延美 小牧 信 近藤兄二郎 上田平八郎 明石 聖一

嶋崎政太郎 兩角 武方 關口 茂 末澤 繁信 秋山 光喬 宮崎 喜作 同特別學生

杉浦 諭吉 同特別學生(イロハ順)

陳 洵 李梅樹 李 鳳 榮 權 兩澤 桂野 文克 野口 量介 安井 善一 増田 三男

彫刻科塑造部(イロハ順)

井上 信道 磐若 一郎 富岡 泰 大塚 三郎 榎本 薩雄 金工科鍛金部(イロハ順)

片山 義郎 横田 文男 吉川 常雄 吉田 寛次 榎本 薩雄 金工科鍛金部(イロハ順)

409 第7節 昭和4年





定 田邊〔孝次〕助教授は特に本校より出張を命ぜられ研究の爲め二氏と同行したり

○青山〔新〕講師は麻布區筈町八に轉居せり

○谷本〔千代雄〕書記は市外日暮里町字日暮里一〇六八に轉居す。

〔東京美術学校近事〕 二二八一—二。S・四・六・五〕

### 職員動靜

○職員辭令

昭和四年三月三十日

講師 香取秀治郎

學術研究ノ爲朝鮮へ出張ヲ命ス 但往復共一ヶ月間ノ事

書記 古田 坂松

昭和三年度物品出納検査官吏ヲ命ス

書記 芹澤 閑

本校主任收入官吏書記筒崎謙齋取扱ニ係ル帳簿金櫃ノ検査ヲ命ス

同 年同月三十一日

講師 武田 信一

同 年四月四日

教授 島田 佳矣

助教授 田邊 孝次

學術實地指導ノ爲奈良縣和歌山縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共

十七日間ノ事

講師 齋藤 幸晴

本校生徒修學旅行ニ付奈良縣和歌山縣京都府へ出張ヲ命ス 但往復共十七日間ノ事

同 年同月十日

教授 島田 佳矣

圖案科理事ヲ免シ同科主任專務ヲ命ス

助教授 千頭 庸哉

圖案科理事ヲ命ス

教授 津田 信夫

鑄造科理事ヲ免シ同科主任專務ヲ命ス

助教授 高村 豐周

鑄造科理事ヲ命ス

地方技師 阪谷良之進

本校生徒京都府修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス

地方技師 岸 熊吉

正七位 新納忠之介

本校生徒奈良縣修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス

同 年同月十三日

神戸高等工業學校教授 古宇田 實  
兼東京美術學校教授

任神戸高等工業學校校長 敘高等官二等

同 年同月十六日

本校講師ヲ囑託ス 但漆工科ニ課スル漆工史授業擔任ノ事  
吉野 富雄  
任東京美術學校助教 圖書師範科ニ課スル用器畫及繪畫授業擔  
任ヲ命ス

同 年同月十七日

教授 平田 榮二  
助教 三浦 直政

學術實地指導ノ爲京都大阪奈良三重ノ二府二縣下へ出張ヲ命ス  
但往復共十日間ノ事

同 年同月二十二日

教授 島田 佳矣

教員檢定委員會臨時委員被仰付 第三部部屬ヲ命ス

同 年同月二十三日

學校長 正木 直彦

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「グラン・オフキシエー・サン  
・モリス・エ・ラザル」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラ  
ル

同 年同月二十五日

助教授 小泉 勝爾

同 常岡 文龜

學術實地指導ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事

同 年同月二十七日

教授 島田 佳矣

學術研究ノ爲石川縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

同 年五月六日

長野 新一

任東京美術學校助教 圖書師範科ニ課スル用器畫及繪畫授業擔  
任ヲ命ス

○今回宮内省に於て臨時正倉院寶庫調査委員會を設置せられ正木

〔直彦〕校長、關野〔貞〕講師、北村〔耕造〕講師〔宮内技師〕

外數氏は四月十日同會委員を命ぜられたり。

○正木〔直彦〕校長 四月十二日より一週間大阪府及島根縣下へ出

張せらる、五月一日より四日まで石川縣金澤市へ出張されたり。

○水谷〔武彦〕助教 尙在外中なるが留守宅を荏原郡世田谷町中

横根二九五一へ移轉す。

○三浦〔直政〕助教 北豐島郡長崎町西向二四五二へ轉居。

○福岡〔縫太郎〕助手 北豐島郡巢鴨町上駒込染井一〇へ轉居。

學校近事〔二八一三。S・四・七・一〕

○職員辭令

昭和四年五月十三日

教授 平田 榮二

學術研究ノ爲石川縣へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月二十三日

東京美術學校服務 陸軍歩兵中佐 神保豐治郎

本校生徒野營演習ニ付千葉縣習志野へ出張ヲ囑託ス 但往復共四

日間ノ事

生徒主事兼教授 鈴木 信一

本校生徒野營演習ニ付千葉縣習志野へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事  
生徒主事補 高橋 吉雄

本校生徒野營演習ニ付千葉縣習志野へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事  
講師 齋藤 幸晴  
助教授 松垣 鶴雄  
助教授 三浦 直政

學術實地指導ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ス 但往復共一日間ノ事  
助教授 森田龜之助

學術研究ノ爲千葉縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事  
同 年五月三十日  
教授 平田 榮二

學術研究ノ爲千葉縣へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事  
教授 平田 榮二

○澤口〔悟一〕講師 東京工業試驗所技手なりし處五月十五日同所技師に陞任され高等官七等に叙せられたり

學校近事〔二八一四。S・四・一〇・一〕

○職員辭令

昭和四年六月二十日

教授 平田 榮二

學術研究ノ爲山形福島二縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

學術研究ノ爲山形縣及新潟縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事  
除服出仕  
助教授 松垣 龜雄

昭和四年六月二十二日

講師 青山 新  
講師囑託ヲ解ク 任東京美術學校助教授 西洋彫刻史授業擔任ヲ命ス

同 年七月十二日

助教授 青山 新

歐洲、亞弗利加並ニ西部亞細亞地方へ出張ヲ命ス

同 年同月十八日

生徒主事 鈴木 信一

生徒水泳場視察ノ爲千葉縣下へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

生徒主事補 高橋 吉雄

生徒水泳場視察ノ爲千葉縣下へ出張ヲ命ス 但往復共二日間ノ事

助手 内藤 春治

學術研究ノ爲宮城縣下へ出張ヲ命ス 但往復共十六日間ノ事

同 年八月一日

步兵第一聯隊大隊長 石川 吉郎  
陸軍歩兵少佐

補歩兵第一聯隊附 東京美術學校服務ヲ命ス

步兵第三聯隊附 神保豐治郎  
陸軍歩兵中佐

東京美術學校服務ヲ免ス 補歩兵第七聯隊附

同 年同月二十七日

書記 芹澤 閑

除服出仕

同 年同月三十日

教授 津田 信夫

除服出仕

講師 香取秀治郎

帝國美術院會員被仰付

○正木〔直彦〕校長 八月十一日より一週間新潟縣赤倉温泉に於て開催せる聖德太子奉贊會の夏季大學講習會に講師として臨席せられたり。

○久米〔桂一郎〕教授 七月三十一日出發静岡田方郡内浦村三津海濱に避暑靜養せられ九月初旬迄滞在さるゝ由。

○島田〔佳矣〕教授 富山縣高岡市及び石川縣金澤市の各主催夏季講習會講師に應囑の許可を得て七月廿一日出發兩市に赴かれ八月五日歸京さる。

○沼田〔勇次郎〕教授 石川縣工業試驗場主催に係る夏季講習會講師として八月十八日出發廿七八日頃歸京さるべし。

○津田〔信夫〕教授 母堂久しく病臥の處八月十六日永眠され同月二十日午後市外日暮里青雲寺に於て告別式を執行されたり 職員厚誼會より芹澤常務教授宅を弔問し香奠一封を贈呈す。

○石田〔英一〕教授 在外研究中なりし處二ヶ年の在留期を了りて七月十六日無事歸朝されたり。

○鈴木〔信一〕生徒主事 文部省主催にて八月五日より十四日迄東京帝大内に全國直轄學校、各大學の學生生徒主事を召集し學者名士の思想問題に關する講演指導の會を開かれ鈴木〔信一〕主事に高橋〔吉雄〕主事補出席聽講されたり。

○田邊〔孝次〕教授 朝鮮總督府より同府美術展覽會審査委員を囑託され八月十九日出發渡鮮さる。

○神保〔豊治郎〕中佐 本校配屬將校たる神保中佐は昭和二年三月以來約二ヶ年半本校生徒の訓練に熱心盡力されたるが今回歩兵第七聯隊附〔石川縣金澤〕に轉補せられ八月七日赴任さるる筈にて本校後任には歩兵第一聯隊附の石川〔吉郎〕少佐命ぜらる。

○森田助教授〔龜之助氏〕歐洲へ出張を命ぜられ六月二十日東京出發西比利亞鐵道經由にて佛蘭西に向はれたり。歸朝は九月末頃の豫定なり 用件は同氏專攻の西洋美術史の内或る特殊なる事項を研究の爲めなり。

○松田助教授〔權六氏〕後備役陸軍歩兵少尉として六月二十六日より近衛歩兵第一聯隊に召集せられ勤務演習を了へ七月十日召集解除と爲る。

○青山〔新〕助教授 最近新任せられたる同氏は歐洲並に阿弗利加、西部亞細亞地方に出張を命ぜられ七月三十日東京出發八月一日神戸より伏見丸に乗船征途に上られたり。出張の目的は西洋美術史の研究上東西兩洋の美術が互に東漸西流したる交錯點脈絡の迹を探り諸種の資料を蒐集するに在りて其旅行區域も非常に廣く行程數千里にも達すべければ隨て長時日を要し明年春の櫻花開く頃歸朝さるべし。最初は西比利亞鐵道經由の豫定なりしも出發間

近に際し東支鐵道の爭奪にて露支間險惡の形勢に至り西比利亞線も一部杜絶の状態故急に旅程を變更し海洋航路を取ることをなれり。新進銳氣に滿てる青山氏が無事健全に這次大旅行を遂げて歸朝さるゝの日を期待す。尙同氏の旅資は全部財團法人啓明會の補助する所。

○常岡〔文亀〕助教授 暑季休暇中を郷里兵庫縣柏原町に於て送らるゝ爲め七月初旬より歸省、帝展出品の畫作に努力さるゝ由なり。

○西田〔正秋〕助教授 八月三日より約二週間滋賀縣へ旅行せらる。

○關野〔貞〕講師 六月廿二日母堂永逝さる 職員厚誼會より森井〔健介〕教授弔問し香奠を贈呈せり。

○岡田講師〔捷五郎氏〕六月二十日出發北米合衆國へ見學旅行せらる 九月末歸京の筈。

○羽下〔修三〕講師 七月二十三日より一週間北海道地方へ旅行せらる。

○内藤〔春治〕助手 東北帝大の金屬材料研究所開設の夏季講習會に派遣され七月廿五日より二週間聽講並に實習を了りて歸京す。

學校近事〔二八一五。S・四・十一・八〕

○職員辭令

昭和四年九月十六日

教授 小堀 鞆音

(各通)

勅任官ヲ以テ待遇セララル (内閣)

同年同月二十六日

教授 川合芳三郎  
教授 藤島 武二

教授 長原孝太郎

教授 六角注多良

教授 津田 信夫

教授 清水 龜藏

教授 石田 英一

教授 田邊 至

助教授 海野 清

帝國美術院美術展覽會審査員被仰付 (内閣)

同年同月三十日

講師 藤本 萬作

依願解囑

助教授 松田 義之

神宮式年遷宮儀ニ特別奉拜ノ生徒總代引率ノ爲三重縣へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

事務囑託 足立芳五郎

靜岡縣へ出張ヲ命ス 但往復共五日間ノ事

書記 筒崎 謙齋

靜岡縣及愛知縣へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同年同月二十五日

教授 森井 健介

第五回實業學校卒業程度檢定委員ヲ囑託ス(文部省)

○田邊〔至〕教授 朝鮮美術展覽會審査員を囑託され渡鮮中の處九月廿八日歸京さる。

○森田助教授(龜之助氏) 今夏六月中より歐洲に出張を命ぜられ英佛二國に滞在中の處十月四日に歸京されたり。

○小場〔恒吉〕講師 朝鮮總督府より囑託され居る浪樂<sup>〔業浪〕</sup>出土品整理事務上の用件にて十月九日出發朝鮮に赴かれたり。

○足立〔芳五郎〕囑託 筒崎〔謙齋〕會計主任と共に十月六日出發、静岡縣濱松市に於ける高等工業學校に開催の直轄諸學校會計事務協議會に出席し兼ねて附近一二直轄學校に就き會計事務の見學を爲し夫々歸京したり。

○松田助教授(義之氏) 十月初め千葉縣八幡町字菅野二二三番地へ轉居されたり。

神宮式年遷宮執行はせらるゝに付  
奉拜式舉行

十月二日(水曜) 神宮式年遷宮執行はせらるゝに付本校に於ては敬祝の誠意を表する爲め當日午前十時左記の通り奉拜の式を舉行せり。

一、第一電鈴にて生徒一同式場(大講堂)へ參集

一、第二電鈴にて職員一同式場へ參集

一、神宮遙拜

一、勅語奉讀

一、學校長訓話

右終りて退散

因に神宮奉頌唱歌左の如し。

一、天地のむた窮みななく 天津日嗣は榮えんと

御國の基建てませる 皇御祖のかしこさよ

二、千秋五百秋安らけく 瑞穂の國に幸あれと

御國の民を護ります 皇御祖の尊さよ

三、神路の山の彌高く 五十鈴の川の彌遠く

天照る光仰ぎつつ たたへまつらん諸共に

學校近事〔二八一六。S・四・十二・五〕

○職員辭令

昭和四年十月十八日

教授 小林 萬吾

昭和四年度文部省視學委員を命ず 愛知縣へ出張を命ず(文部省)

同 年同月二十三日

教授 小林 萬吾

學術研究の爲臺灣へ出張を命ず 但往復共三週間の事(本校)

同 年同月二十五日

教授 川合芳三郎

同 年十一月一日

教授 長原孝太郎

陸絛高等官三等

(各通)

教授 小林 萬吾  
教授 水谷 鐵也  
教授 松岡 輝夫

陸絛高等官四等(内閣)

同年同月八日

助教授 小泉 勝爾

學術實地指導の爲神奈川縣下へ出張を命ず 但往復共一日間の事

○正木〔直彦〕校長 十一月十一日より奈良正倉院御物曝涼拜觀並に同寶庫保存維持の調査會委員として參列の爲め奈良京都に出張され十五日歸京さる。

○高橋〔健自〕講師 本校講師にして帝室博物館鑑査官(歴史課長)文學博士高橋健自氏は今春來病臥中の處在萬癒えず秋來衰弱加はり十月十九日遂に卒去されたるは惜悼の至なり 二十一日午後谷中齋場に於て告別式を執行され本校職員生徒總代等多數參場せり 職員厚誼會より規定の香奠を贈呈し弔慰したり。

○齋藤講師(佳三氏) 支那南京政府直轄の國立藝術院(在抗州)<sup>[杭]</sup>圖案科教授として招聘せられ十月二十九日東京出發渡支されたり 支那滞在は一年間位の見込なる趣。

○常岡〔文龜〕助教授 下谷區上野櫻木町四五へ轉居す。

○正倉院御物曝涼拜觀の許可を得たる岡田(三郎助氏) 島田〔佳矣〕、小堀〔軻音〕、沼田〔勇次郎〕、小林〔万吾〕、松岡〔輝夫〕、渡邊〔啓三〕 諸教授及び田邊〔孝次〕、松垣〔靄雄〕、三浦〔直政〕、森田〔武〕 西田〔正秋〕の諸助教授、小場〔恒吉〕講師等は十一月一日より十四日迄の間に相前後して奈良に赴き拜觀を爲

し歸京したり。

○正木〔直彦〕校長令息 法學士春野氏秋來病臥中の處藥石効なく漸次重患に陥られ十一月十七日俊邁の才識を抱き三十五歳の壯齡を以て長逝されたるは洵に哀痛の至に堪えず 十九日小石川音羽護國寺に於て葬儀を行はれ職員生徒多數會葬せり 職員厚誼會より生花一對を靈前に供へ弔意を表したり。

○十一月四日本校設置記念式並に大島〔勝次郎〕教授在職二十五年の祝賀式を舉行したり。

一、午前九時三十分第一號鐘にて生徒一同大講堂へ參集著席

一、第二號鐘にて職員卒業生大講堂へ參集

一、學校長式辭

一、大島教授へ祝賀記念品(目錄)贈呈

次に餘興に移る

一、狂言

右了りて茶菓を呈す。

學校近事(二八一七。S・五・一・二五)

○職員辭令

昭和四年十一月十五日

紋從五位

教授 長原孝太郎  
教授 小林 萬吾

(各通)

紋正六位(宮内省)

同 年同月廿五日

除服出仕(文部省)

同 年同月三十日

國寶保存會臨時委員被仰付

名譽教授

高村 光雲

講師(京城帝國大學教授)

田中 豐藏

同

今泉 雄作

同 (東京帝大名譽教授)

關野 貞

同

香取秀治郎

國寶保存會委員被仰付(内閣)

同 年十二月四日

教授 石田 英一

學術研究ノ爲大阪市へ出張ヲ命ス 但往復共四日間ノ事

同 年同月十日

金工科鍛金部理事ヲ命ス

教授 石田 英一

依願金工科鍛金部理事ヲ免ス

助教授 野口 六三

同 年同月二十八日

助教授 森田龜之助

任東京美術學校教授 紋高等官七等(内閣)

生徒主事 鈴木 信一

新潟縣下へ出張ヲ命ス 但往復共三日間ノ事

昭和五年一月八日

助教授 水谷 武彦

在外研究ノ處一月三日歸朝ノ旨届出タリ

同 年同月九日

西洋繪畫史及英語授業擔任ヲ命ス

教授 森田龜之助

○鈴木(信一)生徒主事 十二月十九日より廿一日に至る三日間文

部省に於て各大學及び直轄學校の學生主事又は生徒主事を召集し

東京外國語學校を會場として主事會議を開催せられ本校より鈴木

主事出席したり。

○職員忘年会 十二月二十日夕刻より恒例たる職員忘年親睦會を厚

誼會の主催にて日比谷山水樓に開き正木(直彦)校長を始め職員

五十餘名出席し一堂に團欒して食卓を圍み支那料理を喫しながら

思ひの懇談歡話に興を湧かして酣暢の氣分に浸たり午後八時

頃散會したり 當日は朝より寒雨霏々歇まず夕刻風さへ加はり參

集者に困難を感ぜられたるは遺憾の事とす。

○新年始業式 昭和五年一月八日午前十時に本校大講堂に於て職員

生徒參集して莊重に舉行し兩陛下の御眞影を奉拜し正木校長教育

勅語を奉讀し次で一場の訓話ありて式を終はる 職員は會議室に

退き豫め準備しある極めて簡素なる酒肴にて杯を擧げ各自の年賀

交換をなし和氣霽々裏に正午少し過ぎ散會す。

### 関連事項